

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	いろえんぴつ			
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	4人
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年代のスタッフが在籍し、多様な視点と経験で子ども達に寄り添った支援が可能です。	スタッフで定期的に意見交換を行い、多様な視点を活かした柔軟な支援を心がけています。	保護者様との定期面談を強化し、家庭との連携を深めることで一貫した支援を実現します。
2	児童指導員・保育士資格を有する専門性の高いスタッフが、安心・安全な支援を提供します。	強度行動障害実践研修を現場スタッフの8割が修了しており、専門性の向上に努めています。	外部研修を実施し、スタッフの支援力と専門性のさらなる向上を目指します。
3	広々としたブレイルームを活かし、子ども達がのびのびと活動できる環境を整えています。	ブレイルームでは子ども達の発達段階に応じた遊びを計画し、主体的な活動を促しています。	子ども達の興味関心に応じた新しい遊具や教材を導入し、意欲を引き出す環境づくりを進めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1店舗経営のため受入児童に限りがあり支援の幅を拡大するのが難しい状況にある。	人員基準により定員枠が固定され、地域ニーズに対応しきれない。	人員体制の見直しで定員を拡大し、より多くの児童を受入を目指す。
2	保護者会等、保護者様を対象とした取り組みがなく、保護者様同士の情報交換の場がない。	保護者様同士の交流を主催するのは、様々な配慮が必要となり、慎重な対応が必要。	保護者様との個別面談等を利用し、その必要性や、ありかた等の意見を聞く。
3	児童発達支援センター等他事業所との交流の機会が少なく、他事業所から成功事例などを学ぶ機会が不足している。	積極的な外部交流の場を設けてこなかったことが情報交換不足の要因となっている。	児童発達支援センターとの連携を積極的に行い支援の視野の拡大を図る取り組みが必要。